

第5次上富良野町総合計画基本計画 パブリックコメントと町の考え方

- 1 さきを実施されたアンケートに、町民の望んでいることや期待していることが明確に示されているので、基本計画作成に当たっては出来る限りの具体的な推進計画を示していただきたい。

総合計画は、基本構想や基本計画で構成され、今後のまちづくりの方向性や取り組みの方針を示すものですが、町民のみなさんの関心は、「具体的には、どのような事業を行うのか」という点にあると思います。お寄せいただいたご意見を参考として、具体的な取り組みや事務事業について、「総合計画書」の中に表記できるよう今後の作業を進めます。

- 2 陸上自衛隊駐屯地の現状維持のため、演習場、弾薬庫、ミサイル、戦車、火砲を有する駐屯地であり、新入隊員の基礎訓練地として活用していただきたい。

町民アンケートでも「町の人口維持・移住、定住のため力を入れるべきことは？」の問いに、「駐屯地の規模維持に向けた取り組みの継続」を選択した回答者の割合が、選択項目9項目中2番目の位置になりました。ご意見のあった方法も含め、さまざまな方向から国への働きかけを行い、駐屯地規模の維持に向けた取り組みを進めます。また、基本的なこととして、地元産業の振興による雇用の創出や確保、福祉・教育・医療の充実など、暮らしやすいまちづくりを進め、人口の維持につなげていきます。

- 3 企業振興措置条例により誘致した企業の町内居住人の雇用状況と促進対策について伺いたい。

企業振興条例は、工場等の新設や増設とそれに伴う雇用の拡大に対して、町が事業者の方に支援・助成を行う制度ですが、平成19年度においては、3つの事業所に対して助成を行い、町内居住者19名の雇用拡大につながっています。

今後においても、この制度の活用促進や企業誘致、地元事業者の新規事業進出への支援充実を図り、地元の雇用拡大につなげていきます。

- 4 上富良野町の特産品の開発が極めて重要である。そのため、町、農協、商工会、消費者を含めた研究組織が必要と考える。また、農産物加工実習施設の活用状況は。

昨年11月、町・農協(上富良野支所)・商工会・観光協会で構成する「地産地消協議会」が設立しました。また、商工会を主体とした「まちづくり委員会」では、地元農畜産物を使用した特産品などの研究・開発に取り組んでおり、地産地消や新たな地域産業の創出に向けた取り組みが活発化してきています。第5次総合計画の中でも「産業間連携の強化」や「地元の産業ブランドづくり」については、重点的に取り組む施策として掲げおり、積極的に事業展開していきたいと思えます。

また、農産物加工実習施設の活用状況ですが、この施設の活用による特産品等、商品開発などには至っていませんが、施設の設置目的である「地場農畜産物の生産振興」や「食生活文化の向上」につながっているものと思えます。平成19年度においては、延べ1,088名、251グループの町民のみなさんに利用されています。

- 5 十勝岳、日の出公園、日の出公園キャンプ場、深山峠、北海道遺産「土の館」の積極的な集客対策とPRが必要と考える。

観光は全ての産業に波及する重要な分野です。町内の観光施設はもちろんのこと、自然や景観、産業など、恵まれた地域資源をあらゆる方法を使って積極的にPRし、地域経済への波及につなげていきます。